

関西学院大学経営専門職大学院の認証評価審査結果

ABEST21 は、2010 年 3 月 5 日開催の認証評価委員会及び ABEST21 理事会において、関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻（専門職大学院）の受審申請に対して、下記の認定を行った。

ABEST21 は、認証評価の審査結果に基づき、関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻が、ABEST21 が定める経営分野専門職大学院認証評価基準に適合し、「教育研究の方策は、評価基準が大体において満たされ、教育研究の質維持向上が期待でき、優れている」教育プログラムであると認定した。なお、この認定の期間は 2015 年 3 月 31 日までとし、2015 年までに再度同法人の評価を受けることを求める。

ABEST21 は、関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻の教育の維持向上に向けた自己点検評価の分析に基づき、受審校が行った自己点検評価の分析の適切性、改善課題の分析の適切性、課題解決計画の分析の適切性及び解決計画の実行性の分析の適切性に関する評価の総合評価として受審校の認証評価の認定を行った。

関西学院大学大学院経営戦略研究科経営戦略専攻は、認証評価の各評価項目に対して ABEST21 の認証評価基準を概ね満たしており、かつ教育の質維持向上を図る改善課題を的確に把握し、課題解決を実施していく実行計画も明確に策定し、それを実現していく PDCA サイクルが稼働していく体制が整えられている。しかし、「教育研究上の目的」における「教育研究上の目的達成」に必要な財務戦略に関して、中長期計画との関連での資金調達・使途との関係の分析が十分でないものでより一層精緻化させていくことが必要である。また、「教育課程」における国際経営コースの「英語による MBA 教育」の教育特徴をグローバル化の時代的要請に応えて一層展開していくためには改善していくべき課題があり、より一層の教育研究環境の整備が必要であると思われる。

しかし、一方において関西学院大学の「英語による MBA 教育プログラム」は、特筆すべき優れた教育プログラムである。関西学院大学は、「グローバルな視点と知識を備えたビジネスパーソン」の養成として「英語による MBA 教育プログラム」の教育を実施し、わが国の企業のグローバル化に対応して、英語でビジネスを遂行できる高いコミュニケーション能力と国際的な感覚を身につけビジネスのフィールドを国外にも求めることができるビジネスパーソンの養成を目指している。この教育プログラムは「国際経営コース」として実践され、「企業経営戦略コース」と同一カリキュラムを英語で実施し、日本人学生だけではなく、アジア・オセアニアを中心にアフリカ、中東、北米からの学生が在籍している。

この「英語による MBA 教育プログラム」では、2008 年度から米国のビジネススクール 30 数校が加盟する CIBER (Center for International Business Education and Research) の共同課外授業である GBP (グローバル・ビジネス・プロジェクト) に参加し、2009 年度からは正式単位科目として単位認定をしている。また、海外の提携大学への留学生に対する単位互換の制度も整備し、ピクトリア大学 (カナダ) への留学が行われている。また、このプログラムでは、少人数教育を活かして討論を活発に行い、内外のケースを取り入れた授業を展開している。さらに、GBP の実践型授業においては日本企業がコンサルティング・プロジェクトのクライアントになり、米国の MBA 学生と国際経営コースの学生の混成チームに自社が解決すべき課題を提供し、約 3 ヶ月間にわたって情報収集と課題分析を行い、後半の 2 週間で現地調査・最終報告会を開催する授業を行っている。

この国際経営コースにおけるグローバル化する経済活動に適切に対応できる人材育成のために実施されている「英語による MBA 教育プログラム」は優れた取組であり、21 世紀の時代的要請に応えた教育プログラムと評価することができる。しかし、その内実においては改善されるべき課題

があり課題解決による今後の発展を期待するところである。